

## 台木「ヒリュウ」を用いた主幹形整枝による ミカン「青島温州」の軽労・高品質化

果樹では樹高を低くし、樹形をコンパクトに仕立てることが省力・軽労化に有効であり、温州ミカンでは、わい性台木としてカラタチが使われてきました。最近では、カラタチのわい性変異である「ヒリュウ」を台木として利用すると、カラタチの場合よりもさらにわい化効果が大きく、軽労化と同時に果実の高品質化も図れることが明らかとなっています。静岡県農林技術研究所では、樹勢が旺盛な「青島温州」の台木に「ヒリュウ」を用いて主幹形に整枝し、マルチ栽培を組み合わせることにより、作業がしやすく高品質果実を生産できる新しい栽培システムを開発したので、その概略を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 「ヒリュウ」台木に接いだ「青島温州」の1年生苗を30cmの高さで切り返し、腋芽は芽かきし、頂芽のみを主幹として伸ばします。2年目に側枝を発生させて主幹形とします。「ヒリュウ」台は根が浅く倒伏しやすいので、太い支柱で主幹部を固定します(図1)。
2. 樹高が2.3m、最大樹冠幅が1.9mに維持され、樹上や樹冠内部での作業がなくなるので、慣行栽培(カラタチ台の開心自然形)に比べ、作業能率の向上と軽労化が図れます。
3. 3年目から収穫が可能であり、密植栽培(樹間幅2m、樹列間幅3m)により、9年目で約4トン/10aの収量が見込めます。
4. マルチ栽培により、隔年結果が是正され、果実の糖度と着色が向上します。

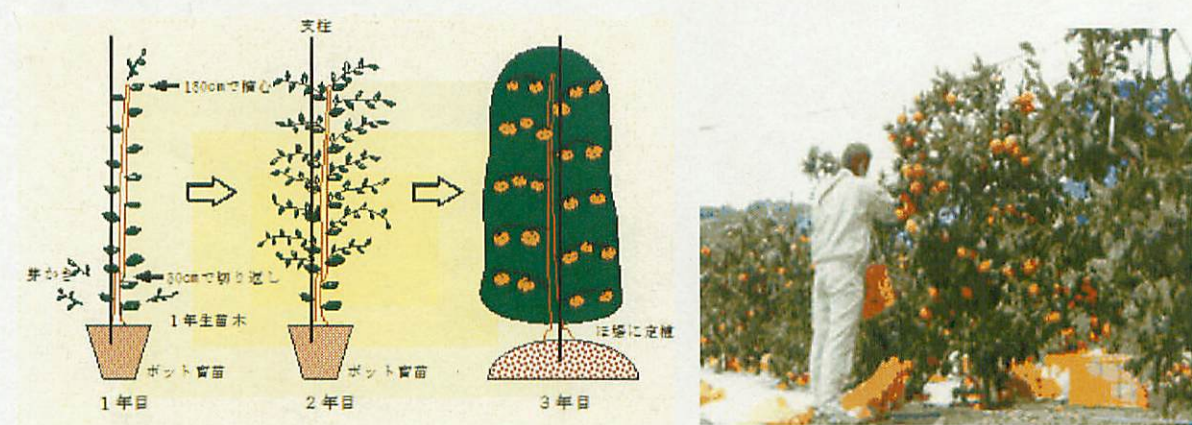


図1 「ヒリュウ」台「青島温州」主幹形整枝樹の育苗法(左)と収穫時の様子(右)

### ☆ 活用面での留意点

1. 生育を促すため、育苗時の2年間はハウス内でのポット育苗を基本とします。
2. 詳細については、静岡県農林技術研究所 果樹研究センター 栽培システム開発(電話: 054-334-4853)にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 テクノアドバイザ - 後藤 明彦)